

コレカラプロジェクトレポートVol.2の概要

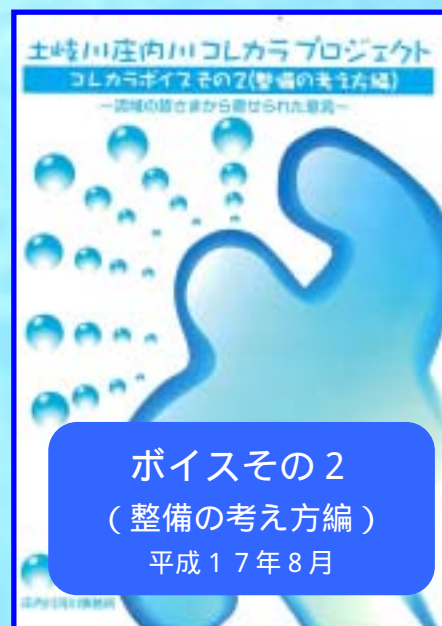
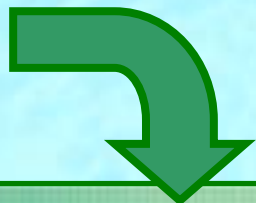


コレカラプロジェクトレポートVol.2とは・・・

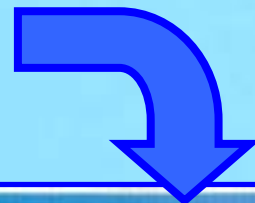
コレカラプロジェクトレポートVol.2は、「庄内川水系河川整備計画【直轄管理区間】」の原案づくりにあたり、現状の課題やその課題を解決するための目標、その目標を実現化するための整備内容(メニュー)を分かりやすく示したものであり、これまでの流域委員会での討議結果や流域住民、流域自治体のご意見やご提案を受けて作成したものです。



河川整備上の課題



河川整備の
目標と整備メニュー



コレカラプロジェクトレポートVol.1とVol.2の関係について

レポートVol.2は、具体化してきた河川整備計画の原案づくりのレポートであることから、「庄内川水系河川整備基本方針」の基本方針に合わせて、レポートVol.1の河川整備上の課題について再整理を行い、課題、整備目標、整備メニュー（案）としてとりまとめています。

コレプロレポートVol.1

河川整備に対する課題

治水上の課題

水利用と水環境からみた課題

河川の自然環境からみた課題

人との関わりの面からみた課題

「コレカラプロジェクト」の
進め方に関する課題

再
整
理

コレプロレポートVol.2

現状の課題、整備目標、整備メニュー

治水の課題・整備目標・整備メニュー（案）

水利用の課題・整備目標・整備メニュー（案）

環境の課題・整備目標・整備メニュー（案）

地域と連携した取り組み

レポートVol.2と河川整備計画(原案)



コレカラレポートVol.2

2)治水の目標(案)

安全性の確保

観測史上最大の洪水となった平成12年9月洪水(新潟豪雨)、平成元年9月洪水と同程度の洪水が発生しても、堤防等の大きな被害を防止するとともに、内水被害の軽減を図ります。

- ・主幹川:平成12年9月洪水 3,100㎧/s(多治見地点)
- ・庄内川:平成12年9月洪水 3,900㎧/s(埴肥島地点)
- ・安田川:平成12年9月洪水 1,100㎧/s(新吉地点)

河川整備の目標流量を上回る洪水及び整備後目標での施設能力以上の洪水が発生した場合においても、被害をできるだけ軽減させます。

流域管理体制の強化

災害発生時はもとより、日頃から防災に対する意識的向上や備忘の充実等を図るとともに、関係機関や地域住民が一体となった危機管理体制の確立を図ります。

【解説】

Q: 何故、平成12年9月洪水(新潟豪雨)や平成元年洪水の規模を対象とするのか?
 A: 河川整備計画では、堤防保全や河川空間の利活用との両方も重要であるという市民の意見等も考慮し、河川整備基本方針で定めた最終目標に向けた段階的整備なども含めて総合的に実施し、当面30年間で行う治水対策の目標として観測史上最大規模の洪水を対象としました。

Q: 洪水時の治水量は、森林や農地の保全、土地利用によって変わると思いますが、目標流量には、その効果は考慮されているのか?
 A: 目標流量は、近年の気候洪水から設定したものです。洪水の流出量を少なくするためには森林や農地の保全、土地利用調整なども重要ですが、大規模洪水時における効果は研究段階であり、十分に解明されていないため、プラスの影響と考慮しています。

Q: 河川整備計画の目標流量はどの程度の標準配分になりますか?
 A: 河川整備計画では、埴肥島地点において標準豪雨と同規模の観測180年に1回発生する洪水、多治見地点では観測30年に1回発生する洪水を目標としています。



河川整備計画(原案)の例

第3節 河川整備計画対象期間

本河川整備計画は、「庄内川水系河川整備基本方針」に基づいた当流域の河川整備を目標とするものであり、その対象期間は次節における整備目標に対し「一連期間において河川整備の効果を実証させるために必要な期間」として概ね30年とする。

なお、本河川整備計画は現時点の流域における社会経済状況、自然環境の状況、河道状況等を前提として策定したものであり、策定後のこれらの変化や新たな知見、技術の進歩等により、対象期間内であっても必要に応じて適宜見直しを行う。

第4節 河川整備計画の目標

第1項 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

1 安全性の確保

洪水による災害の発生防止及び軽減に関しては、過去の被害の発生状況、流域の重要度やこれまでの整備状況など、庄内川の治水対策として計画対象期間内に達成すべき整備水準、河川整備基本方針で定めた最終目標に向けた段階的整備なども含めて総合的に実施し、観測史上最大の洪水となった平成12年9月洪水(愛知県区別)及び平成元年9月洪水(岐阜県区別)と同規模の洪水が発生しても、堤防等による大きな被害を防止するとともに内水被害の軽減を図ることを本河川整備計画における目標とする。

また、河川整備計画の目標規模を上回る洪水及び整備後目標以上の施設能力以上の洪水が発生し超過した場合においても、被害をできるだけ軽減することを目標とする。

河川整備計画において目標とする流量は、下流基準地点埴肥島においてそのピーク流量を3,900㎧/sとし、このうち小原川ダム、小井井越水池などの治水調節施設により200㎧/sを調節して河道への配分流量を3,700㎧/sとする。上流基準地点多治見において、そのピーク流量を2,100㎧/sとし、このうち流域内の小原川ダムにより200㎧/sを調節して河道への配分流量を1,900㎧/sとする。

表3.4.1 河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

河川名	地点名	河川整備計画の目標規模のピーク流量	治水調節施設による洪水調節量	河道への配分流量	備考
庄内川	埴肥島	3,900㎧/s	200㎧/s	3,700㎧/s	平成12年9月豪雨(愛知県区別)
	多治見	2,100㎧/s	200㎧/s	1,900㎧/s	平成元年9月洪水(岐阜県区別)

河川整備の基本的な考え方(1)

計画対象区間(大臣管理区間)

河川名	下流端	上流端	区間延長 (km)
庄内川	左岸:金城西橋 右岸:名港西大橋	三共橋	62.5
矢田川	庄内川への合流点	宮前橋	7.0
八田川	庄内川への合流点	新木津川用水の合流点	4.5
小里川	左岸:瑞浪市陶町水上地先 右岸:恵那市山岡町田代地先	瑞浪市陶町猿爪地先	2.6
猿爪川	小里川への合流点	瑞浪市陶町水上字平地先	1.8
新田川	小里川への合流点	左岸:恵那市山岡町田代字川平地先 右岸:恵那市山岡町田代字花立地先	0.6

庄内川河川
管理区間

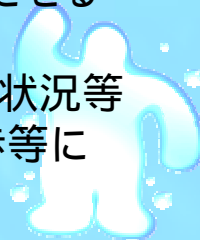
小里川ダム
管理区間

計画対象期間

概ね30年間

計画対象期間は、整備目標に対して、河川整備の効果を発現させるために必要な期間として概ね30年とします。

現時点の流域における社会経済状況、自然環境の状況、河道状況等を前提としているため、これらの変化や新たな知見、技術の進歩等により、適宜見直しを行っていきます。



河川整備の基本的な考え方(2)

総合的な視点で河川整備を推進

治水(洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減)、**水利用**(河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持)、**環境**(河川環境の整備と保全)に関するそれぞれの目的が調和して達成されるよう総合的な視点で河川整備を実施。

河川整備に際しての配慮

本川下流部の整備の進捗状況に応じた上中流部や支川の整備
地域や河川が有する風土や景観、動植物の生息、生育環境、市民が水に
ふれあえる環境(親水)への配慮

河川整備に係る費用と整備により得られる効果や影響

モニタリング・評価とフィードバック

「現状の把握(調査)」・「施策の立案(計画)」・「施策の実施(施工)」・「維持管理」、そしてモニタリング(監視)・評価、さらにはそれをフィードバックして改めて計画等に反映するという一連のシステムのなかで実施。

